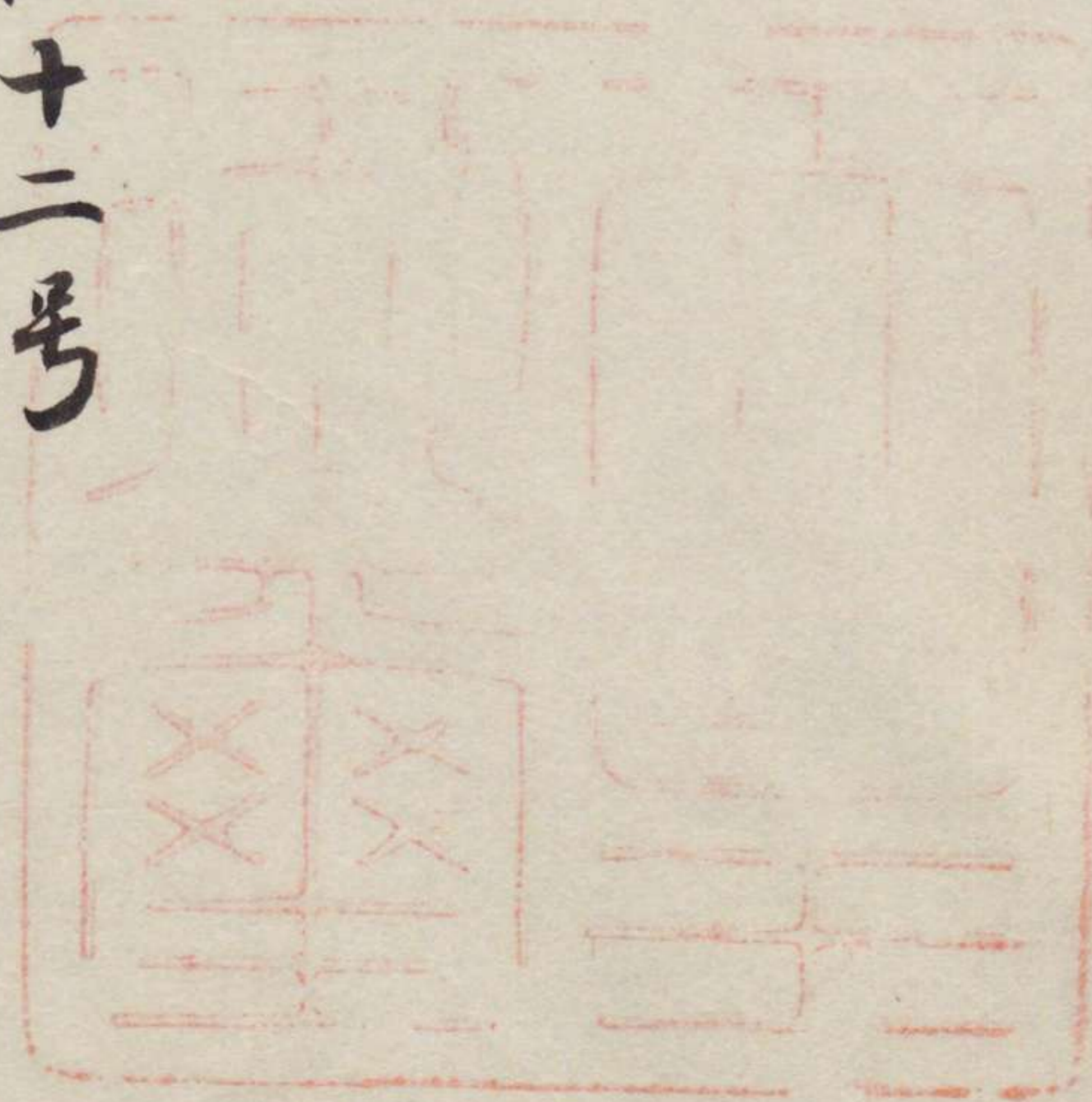


勅令第四百十二号

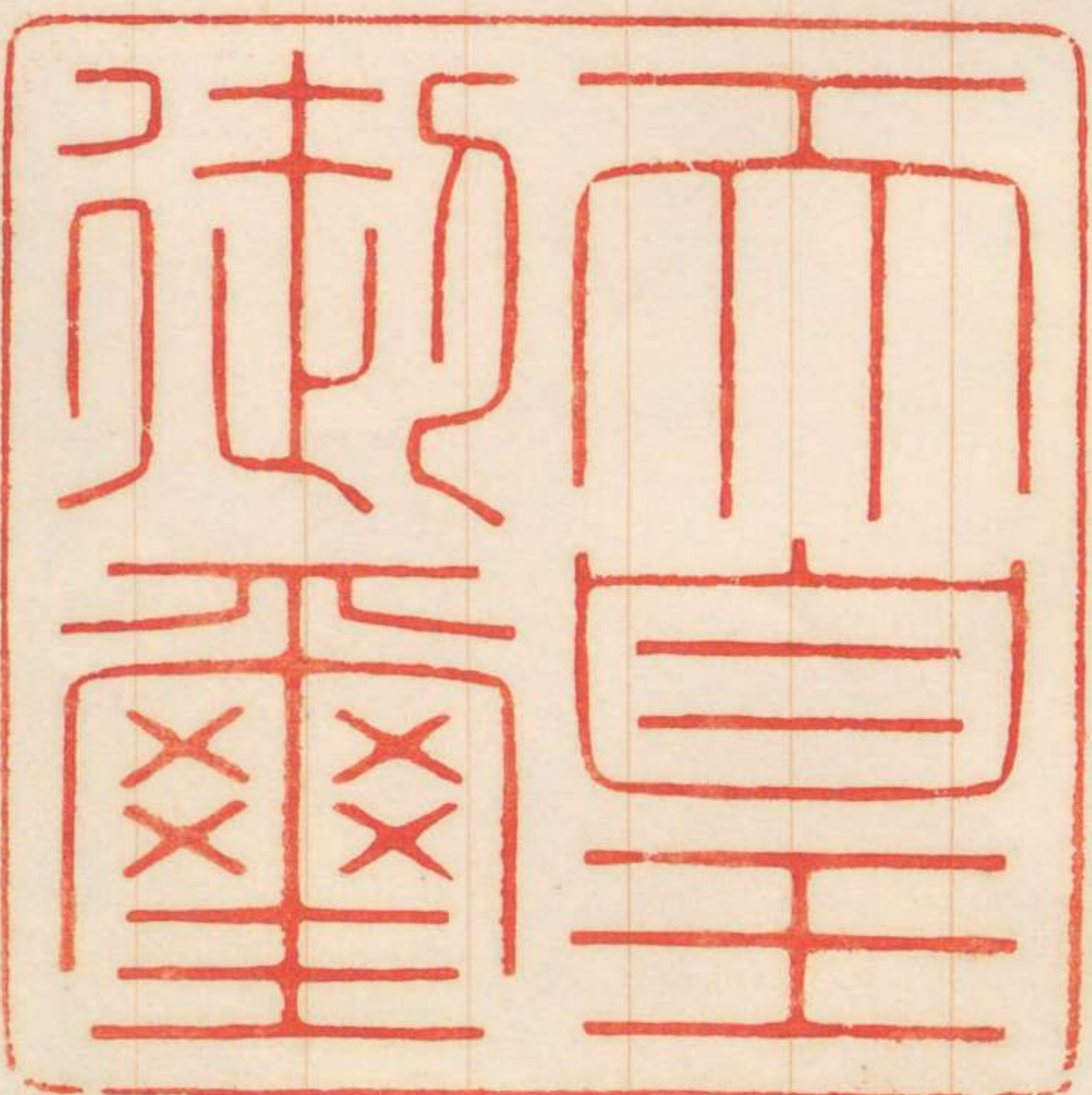


紙
通



朕南滿洲鐵道株式會社ニ關スル件ヲ裁
可シ茲ニ之ヲ公布セシム

睦仁



明治三十九年六月七日

日

月

内閣總理大臣侯爵西園寺公望
逋信大臣 山縣伊三郎

勅令第四百十二號

第一條 政府ハ南滿洲鐵道株式會社ヲ
設立セシメ滿洲地方ニ於テ鐵道運輸
業ヲ營マシム

第二條 會社ノ株式ハ總テ記名ト爲シ
日清兩國政府及日清西國人ニ限リ之
ヲ所有スルコトヲ得

第三條 日本政府ハ滿洲ニ於ケル鐵道
具ノ附屬財産及炭坑ヲ以テ具ノ出資
ニ充ツルコトヲ得

第四條 會社ハ新ニ募集スル株式總額
ヲ數回ニ分ツテ募集スルコトヲ得但
シ第一回募集額ハ總額ノ五分ノ一ヲ
下ルコトヲ得ス

第五條 株金ノ第一回ノ拂込金額ハ株
金ノ十分ノ一迄下ルコトヲ得

第六條 會社ハ本社ヲ東京市ニ支社ヲ
大連ニ置ク

第七條 會社ニ總裁一人副總裁一人理
事四人以上監事三人乃至五人ヲ置ク

第八條 總裁ハ會社ヲ代表シ其ノ業務
ヲ總理ス

副總裁ハ總裁事故アルトキ其ノ職務
ヲ代理シ總裁缺員ノトキ其ノ職務ヲ
行フ

副總裁及理事ハ總裁ヲ補助シ會社ノ
業務ヲ分掌ス

監事ハ會社ノ業務ヲ監査ス

第九條 總裁副總裁ハ勅裁ヲ經テ政府
之ヲ命シ其ノ任期ハ五箇年トス

理事ハ五十株以上ヲ有スル株主中ヨリ政府之ヲ命シ其ノ任期ハ四箇年トス

又
監事ハ株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ハ三箇年トス

第十條 總裁副總裁及理事ノ報酬及手當ノ額ハ政府之ヲ定ム

第十一條 總裁副總裁及理事ハ在任中何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ス但シ政府ノ

認可ヲ得タルトシテ限ニ在ラス

第十二條 政府 道株式會社

監理官ヲ置キ其ノ職務ヲ監視セシム

監理官ハ何時ニテモ事業ノ進捗ヲ施設ヲ監督シ會社ノ金庫帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得

監理官ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ會社ニ命シテ營業上諸般ノ計算及景況ヲ報告セシムルコトヲ得

理事ハ五十株以上ヲ有スル株主中ヨリ政府之ヲ命シ其ノ任期ハ四箇年トス

又
監事ハ株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ハ三箇年トス

第十條 總裁副總裁及理事
當ノ額ハ政府之ヲ定ム

第十一條 總裁副總裁
何等ノ名稱ニ依リ
業ニ従事スル
職務又ハ商
但シ政府ノ



認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 政府ハ南滿洲鐵道株式會社
監理官ヲ置キ會社ノ業務ヲ監視セシム

監理官ハ何時ニテモ事業ノ施設ヲ監
査シ會社ノ金庫帳簿及諸般ノ文書物
件ヲ検査スルコトヲ得

監理官ハ必要ト認ムルトキハ何時ニ
テモ會社ニ命シテ營業上諸般ノ計算
及景況ヲ報告セシムルコトヲ得

監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第十三條 政府ハ會社ノ事業ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第十四條 會社ノ決議又ハ役員ノ行爲ニシテ法律命令若ハ會社ノ目的ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ又ハ監督官廳ノ命シタル事項ヲ執行セサルトキハ政府ハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ役員ヲ解

職スルコトヲ得

第十五條 政府ハ必要ト認ムルトキハ帝國內ニ於ケル鐵道ニ關スル法令ノ規定ヲ會社ニ適用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ政府ハ適用スヘキ法令ノ事項ヲ會社ニ豫告スヘシ

第十六條 本令ニ別段ノ定ナキモノハ商法及附属法令ノ規定ヲ適用ス

第十七條 明治三十三年勅令第三百六十六號ハ本令ニ依リ設立スル會社ニ

之ヲ適用セヌ

附則

第十八條 政府ハ設立委員ヲ置キ南滿洲鐵道株式會社設立ニ関スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第十九條 設立委員ハ定款ヲ作り政府ノ認可ヲ得タル後第一回株式ヲ募集スヘシ

第二十條 設立委員ハ第一回株式ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ政

府ニ差出シ會社設立ノ許可ヲ稟請スヘシ

第二十一條 前條ノ許可ヲ得タルトキハ設立委員ハ遷滞ナク各株式ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

前項ノ拂込アリタルトキハ設立委員ハ遷滞ナク創立總會ヲ招集スヘシ

第二十二條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ南滿洲鐵道株式會社總裁ニ引渡スヘシ

